



池田家文庫絵図展

陸の道

平成19年11月16日(金)～12月2日(日)
岡山市デジタルミュージアム(岡山市駅元町15-1)



岡山大学附属図書館



岡山市デジタルミュージアム

対馬 五島 平戸 長崎 天草 島原 柳川 筑後川 福岡 熊本 秋月 小倉 下関 長府 中津 竹田 徳山 宮島 広島 松山 三原 福山 高松 赤穂 明石 兵庫 西宮 尼崎 大阪 守口 山崎 伏見 京



25 関所通手形認察 江戸時代後期

せしよわたりがたしたためん
関所通手形認察(1) 182 (1) 16.2寸×49.5寸 (2) 33.0寸×15.7寸

(1) 一両街道切手指出候ケ所書付
東海道および中山道で通行切手を指し出すべき番所と関所を書き上げたもの。
(2) 「碓氷関所通手形」
(3) 「箱根関所通手形」
関所通行切手の雛形。包紙入り。(1)～(3)を含め五通が一箱に袋に入っている。

29 御掃国御道中御行列 文化六年(一八〇九)

ごんごくごんごらちゅうおやすおとまりしよじとら
御掃国御道中御行列(1) 755 16.3寸×6.9寸

帰国道中の行列次第を記した帳面。道中用の小帳を立てて。参府道中との大きな違いはない。

30 御掃国御道中御行列 慶応二年(一八六六)十二月

ごんごくごんごらちゅうおやすおとまりしよじとら
御掃国御道中御行列(1) 755 19.0寸×8.7寸

池田茂政が京都から岡山に帰国したときの行列次第を記した帳面。小帳。第二次長州戦争の停戦後、十月から在京していた茂政は、徳川慶喜の將軍宣下を見届けたうえで、十二月十日に帰国の途に着いた。平時の参勤交替とは異なって、天皇からの賜物である「天盃」を先頭に掲げ、大砲隊や銃隊を配するなど、幕末らしい行列編成になっている。

26 御参府御道中御供御行帳 文化五年(一八〇八)三月

ごんぶごらちゅうおやすおとまりしよじとら
御参府御道中御供御行帳(1) 728 19.3寸×7.5寸

岡山から江戸への参府道中の行程と道中の役割分担を記した帳面。道中も袖に入れて持ち運べるような小帳に仕立てられている。このときの藩主は池田斉政。三月十五日に岡山を出発し、美濃路・東海道を経て四月四日に江戸に着いている。

27 御参府御道中御供御行帳 文化五年(一八〇八)三月

ごんぶごらちゅうおやすおとまりしよじとら
御参府御道中御供御行帳(1) 759 19.0寸×7.2寸

参府道中の行列次第を記した帳面。道中用の小帳を立てて。岡山から兵庫まで海路で行くものは「播磨磨御船」の貼紙がある。朱書の付紙は、役職を示している。

28 御掃国御道中御休御泊諸事留 文化六年(一八〇九)

ごんごくごんごらちゅうおやすおとまりしよじとら
御掃国御道中御休御泊諸事留(1) 760 16.3寸×6.9寸

江戸から岡山への帰国道中の行程と道中の役割分担を記した帳面。道中用の小帳を立て、藩主は同じく池田斉政。四月二十一日に江戸を出発し、中山道を経て五月九日に岡山に着いている。

第19回全国生涯学習フェスティバル
まなびピア岡山2007協賛事業

池田家文庫絵図展

陸の道

発行日 2007年11月16日
編集・発行 岡山大学附属図書館
岡山市津島中3-1-1
電話086-251-7322
印刷 株式会社 三浦印刷所
岡山市奥田1丁目4-7

© Okayama University Library 2007

陸の道

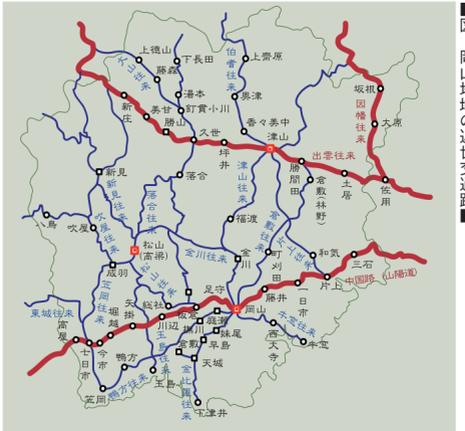
池田家文庫絵図展

江戸時代の交通

人の移動が繰り返されると、道ができる。だから、道の歴史は人類とともに古い。国家が生まれると、支配のためのルートとして道が利用される。無数の道のうち、幹線道が「官道」として政府によって維持管理されるようになる。古代の律令国家では、都と地方とを結ぶ「七道」が整備され、三十里(約十六里)ごとに駅屋が設けられた。

江戸時代になると、京都と江戸とを結ぶ東海道・中山道、および江戸を始点とする甲州道中・日光道中・奥州道中が「五街道」として徳川幕府によって直接管理された。五街道は、道中奉行が専管した。それ以外の地方の幹線道は「脇街道」とされ、幕府勘定奉行の支配を受けたが、日常的な維持は各地の領主に任された。脇街道のうち最も重要なのは、大坂と小倉を結ぶ中国路(西国路・山陽道)、小倉と長崎を結ぶ長崎街道であった。

産業の発達した江戸時代には、物流も盛んになった。大量の物資の輸送には、船が便利だ。海や河川交通が発達し、陸の道との結節点には物流の拠点となる町場が発展した。幹線道には「一里塚」が設けられ、中小河川には橋が、大川には渡し舟などが整備された。



図・岡山地域の近世交通路

五街道並の二十五人二十五匹と定められ、高屋は十五人二十四、藤井と板倉は八匹の定めであった。備前国内の三石と片上には特に定めはなかった。出雲往来では、津山が二十五人二十五匹と五街道並であった。交通量の増加した江戸時代中期以降には、地方道の通る在町でも伝馬や人足を提供するようになった。

駅の困窮をいよいよ増すようになった。岡山・藤井・片上・三石の四か駅は、連名で賃金の割増を何度もお願いし、藩はこれを幕府に取り次いだ。幕府は、五街道を中心に運賃の割増を認めていただけに、地方からの要請も認めざるを得なかった。岡山藩四か駅では、文化十年(一八一三)にそれまでの賃金の一・五割増、文政十二年(一八二九)にさらに一・五割増、計四割増が認められた。その後も四か駅は割増のお願いを繰り返した。幕府は容易にそれを認めなかった。また、地域には地方の幹線道以外にも、村と村を結ぶような細かな道路網が張り巡らされていた。これらの道路は藩の郡奉行が監督し、その情報は郡絵図などに記された。十七世紀中頃に岡山藩領で作られた郡絵図には、村の道は「馬道」と「歩行道」に区別され、道に掛かる橋も「石橋」「土橋」「板橋」の区別が記されている。こうした村の道や橋の補修は基本的に村の自普請であったが、数か村にまたがるような場合は藩の御普請で行われることもあった。

岡山藩の参勤交替

江戸時代の大名は、一年おきに領地と江戸で交替に居住する参勤交替が幕府によって命じられていた。そのため、毎年藩主自身が領

た。所要所の辻には、旅人が休息したり安全を祈願したりする「四つ堂」が設けられた。江戸時代の交通情報は、幕府が作成を命じた国絵図に記されている。とりわけ正保年間(一六四四～四八)の国絵図には「道筋并灘道舟路帳」が付けられ、各国内の道路を大道・小道・山道・灘道(海岸沿いの道)に区別して記し、主な地点間の距離、渡る川の幅・深さ、節所(坂道の難所)などが細かく報告された。交通情報は、軍事上重要であった。

宿駅伝馬制

関が原の戦いが終わった翌年の慶長六年(一六〇一)、徳川家康は東海道に宿駅を定め、人や物資を運び送る役を課した。これを伝馬役という。このため、宿駅には馬と人足を常備することが求められた。この宿駅伝馬制は慶長七年(一六〇二)には中山道にも設けられ、その後他の街道でも整備が行われた。常備すべき人馬の数は、十七世紀半ば以降、東海道は各宿駅ごとに百人百匹、木曾路を除く中山道は五十人五十匹、中山道のうち木曾路十一宿および他の三街道は二十五人二十五匹の定めであった。

岡山の街道

岡山地域では、東西に中国路・出雲往来という二本の幹線道路が走り、その間を多くの地方道が縦横に結んでいた。北へは鳥取に至る因幡往来、南には児島から四国に通じる金毘羅往来も通っていた。中国路の道筋は、宇喜多氏による岡山下町建設にともなうて城下を通るルートに変更されていた。しかし、幕末期に他藩の軍勢などが頻りに往来するようになると、混乱を避けるために城下を迂回する「新道」が整備されたりした。これらの幹線道には、宿駅が設けられた。伝馬役は、中国路では岡山・矢掛・七日市(井原市)が

地と江戸の間を通行した。岡山藩の場合、参勤行列の人数は正確には把握しづらいが、付き添いの家臣や足軽・小者などを合せて数百人ものぼったと思われる。行列は一般には、藩主の乗る輿を中心に槍や弓・長刀を配し、威儀を正したものであったが、幕末の慶応年間(一八六五～六八)になると、大砲や鉄砲を備えた軍事色の強いものになった。

一行は、岡山から兵庫までは陸路と海路に分散したが、兵庫からは総勢が陸路で江戸との間を往來した。京都・江戸間は東海道を通る場合も中山道を通る場合もあった。美濃路・東海道を通って参府した文化五年(一八〇八)の場合は総距離が百八十一里十二丁(約七百七十二里)、中山道を通って帰国した文化六年(一八〇九)の場合は百九十里十四丁(約七百四十八里)、いずれの道中も十九泊二十日の旅行であった。ちなみに藩の急御用の書状を運んだ早飛脚は、江戸・岡山間を六日で駆け継いだ。

これほどの大集団が行う大旅行だけに、道中のトラブルは避けがたかった。しかし、他藩の家臣や他領の住民との紛争は幕府の介入を招くだけに、極力避けなければならなかった。宿泊・休息の手配、人馬の雇用など、事前の準備には万全が期された。トラブルを避けるために道中の行動が細かく規制され、息の抜けない旅でもあった。

(解説 岡山大学・教授 倉地克直)

〔展示品解説〕

1 御納戸大帳 江戸時代前期
岡山藩政確立期の幕府法令および岡山藩独自の重要な法令を収録した。...

2 撮要録巻十四 江戸時代後期
岡山藩の農村支配に関する基本史料を編集したもの。...

3 駄賃高札控 江戸時代中期
中国路の藤井宿に揚げられた駄賃高札の文面を写した。...

6 備前国絵図 正徳五年(一七一五)八月
池田綱政から継代への藩主交代にあたって幕府から派遣された監使(目付、曾我平次郎・中野佐兵衛)に提出された国絵図の控。...

7 三石国境ヨリ森下迄沿道之図 江戸時代後期
播磨国境の三石から岡山城下口の森下まで、中国路の様子を極彩色で描いたもの。...

11 備前国道筋并難道船路帳 正保四年(一六四七)
正保の国絵図とともに作成が命じられ、幕府に提出されたもの控。...

12 備前国往還付替願 文久三年(一八六三)
幕末になって中国路の往来が増加し近隣の軍事的緊張も高まったことから、岡山藩では無用の混乱を避けるために、中国路付替えを計画し、...

13 新道御用ニ付古往還御廢シ可相成との御事ニ付書付 元治元年(一八六四)
新道への付け替えによって、従来の中国路のうち藤井宿から城下森下口まで、および万町口から一宮東外れまでの道路が、幅員縮小もしくは廃止されることになった。...

18 御四ヶ駅御割増一件 文政十一年(一八二八)
中国路の藩内四ヶ駅が、賃銭割増を歓迎した一冊書類を編集した帳面。...

19 備前国脇五ヶ駅往來絵図 嘉永元年(一八四八)
賃銭割増の歎願書(16)に添えられた絵図。往還筋が村名とともに朱線で描かれ、...

20 正徳二辰年御定御高札面入馬元運賃書上帳 嘉永元年(一八四八)
賃銭割増の歎願書(16)に添えられた帳面。...

21 御定之外以里割割合継來相成居申入馬元運賃書上帳 嘉永元年(一八四八)
賃銭割増の歎願書(16)に添えられた帳面。...

4 東西道中之絵図 江戸時代後期

絹布貼付表紙の豪華な装幀の折本。桐箱入り。江戸から肥前五島までが描かれる。...

5 大日本道中細見図 江戸時代後期
全国の主な街道と宿駅を記した絵図。木版多色刷、折本、帯封入り。...

8 上東郡図 万治四年(一六六二)頃
万治四年(一六六二)頃岡山藩の郡奉行が郡方支配の便宜のために作成した郡図の一枚。...

9 備前国絵図 寛永十五年(一六三八)頃
「寛永古図」として伝えられるもので、余白部分に領主名と知行高が書かれており、その領主名から寛永十五年(一六三八)頃に作成されたと考えられている。...

14 上道郡藤井駅ヨリ津高郡西辛川村迄目論見新道見取凡絵図 文久三年(一八六三)
新道付け替えの目論見絵図。願書に添えられたもの。...

16 備前国脇五ヶ駅賃銭割増ニ付歎願書 嘉永元年(一八四八)八月
和気郡和気村、赤坂郡周面村・福田村・町苅田村、津高郡金川村の脇五ヶ駅が、困窮を理由に、西国往還筋の藩内四ヶ駅と同様に、割増賃銭を認められていた。...

17 御四ヶ駅并脇往反共人馬賃銭割増御願継一件 嘉永元年(一八四八)
中国路の岡山・藤井・片上・三石の四ヶ駅および脇五ヶ駅が駄賃・人足賃の割増を歓迎した一冊書類を編集した帳面。...

22 駄賃人足賃相定覚 正徳二年(一七一二)
郡奉行などを長年勤めた岡山藩士の石丸定良が編纂した地誌。...

24 道中被仰出口上覚書 江戸時代中期
(1) 御近習之者江戸へ召連申人数覚
(2) 二道中之覚

